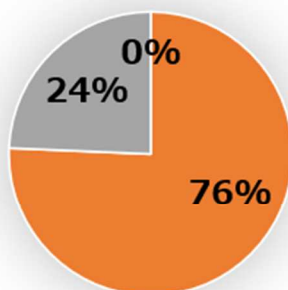


§ アンケート集計結果（１） <6月15日時点の肌感覚で状況を教えてください>

アンケート実施期間：6/15～6/30、回答社数：76社(正会員:91社+5団体)

現在の原材料の調達に

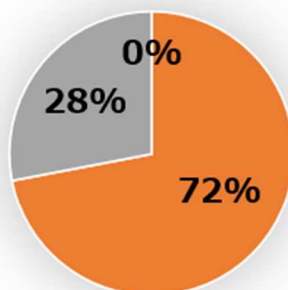


- 支障、不安はなく前年同期以上の生産が可能
- 前年同期並みの製造であれば支障はない
- 不安がある

- ・主要溶剤の供給不安は概ね改善しているものの、エステル・ケトン・アルコール系溶剤、ターペン、メタノール、ブチルセロソルブなど一部品目では調達難や出荷制限が続いている。価格も高止まりしており、依然として安心できる状況ではない。
- ・エマルジョン樹脂、エポキシ樹脂、水系カチオン樹脂、ウレタン樹脂、アクリル樹脂、ポリオレフィン系樹脂などで納期遅延や供給制限が発生しており、一部製品の製造・増産に影響が生じている。
- ・PP容器やプラスチック容器、ビニール製品、包装材などの納期遅延や供給不安が続いているほか、作業着や印刷物など周辺資材についても納期が従来より長期化している。
- ・イラン・中東情勢の悪化や輸入原料への依存、石油化学メーカーの定期修理（定修）などにより、今後の原材料供給が再び不安定化することへの懸念が強い。また、納期回答が不明確で先々の見通しが立てにくいとの声も多い。
- ・多くの原材料は前年並みの生産・調達が可能となり供給環境は改善している一方、特定原材料では前年実績ベースでの供給制限や供給能力不足が残っており、需要増への対応や安定供給にはなお課題が残っている。

原材料の供給環境は3～4月の混乱時と比べると全体として回復傾向にあるものの、特定の溶剤・樹脂・容器類では依然として調達難や納期遅延が続いている。また、中東情勢や石化メーカーの定修など外部要因による供給リスクへの警戒感が強く、将来の安定調達にはなお不透明感が残っている。

来月以降の原材料の調達に



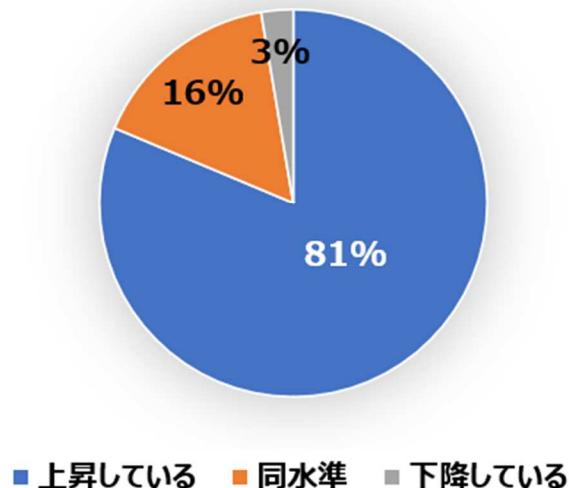
- 支障、不安はなく前年同期以上の生産が可能
- 前年同期並みの製造であれば支障はない
- 不安がある

- ・ミネラルスピリット、ターペン、高沸点溶剤など一部溶剤のほか、エポキシ樹脂、水系カチオン樹脂などで調達難や納期遅延が続いている。樹脂メーカーの生産逼迫により、一部製品では供給遅延も発生している。
- ・包装材や容器などの包材について価格上昇に加え供給不安が続いている。原料メーカーからの納期回答も遅く、不明確なケースが多く、安定した調達への不安が残っている。
- ・現時点では大きな支障はないとの意見がある一方、7月までは見通しが示されても、8月以降・9月以降はメーカーからも「不透明」との回答が多く、長期的な供給バランスへの懸念が強い。
- ・停戦合意の行方や中東情勢、ホルムズ海峡の動向次第では供給環境が再び悪化する可能性があるとの見方が多く、メーカー側の供給計画もこれらの外部要因に左右されることへの不安が示されている。
- ・秋の繁忙期に向けた必要量の確保や在庫積み増しに不安があるほか、溶剤メーカーや原料メーカーから供給見通しを早期・明確に示してほしいとの要望が多い。一方で、現時点では特に入手困難な原料はないとの意見もあり、全体としては改善傾向も見られる。

足元の供給状況は比較的落ち着きを取り戻しつつあるものの、一部溶剤・樹脂・包材では依然として調達不安が残っている。特に、中東情勢など外部環境の影響から8～9月以降の供給見通しは不透明であり、繁忙期を見据えた安定供給と、メーカーによる早期かつ明確な情報提供を求める声が目立つ。

§ アンケート集計結果（２） <6月15日時点の肌感覚で状況を教えてください>

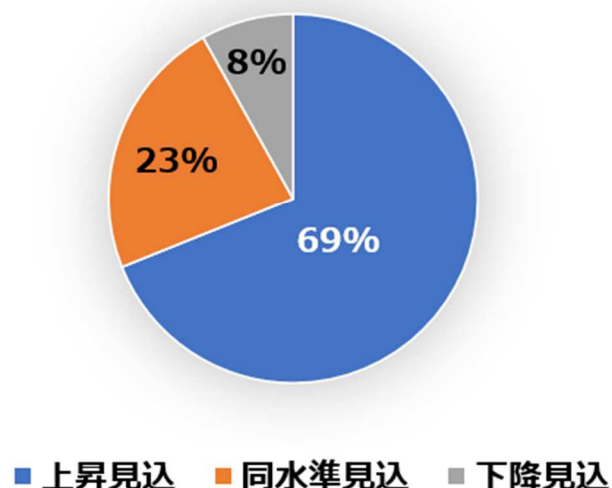
原材料価格は一か月前と比較して



- ・3～4月に溶剤価格が急騰し、その後、樹脂・添加剤・顔料・副資材など幅広い塗料原材料へ値上げが拡大した。製品原価への影響も今後さらに顕在化する見込みである。
- ・溶剤価格は依然として高水準を維持しているほか、多くの原材料で2次・3次・4次値上げが実施・予定されている。毎月のように価格改定通知が届き、顔料や樹脂でも追加値上げが続いている。
- ・ナフサ価格の下落を受け、一部溶剤ではピーク時よりやや値下がりする動きや、一部原材料の価格低下も見られる。しかし、2月以前と比較すると依然として高水準で推移しており、大半の原材料は高止まりしている。
- ・原油・ナフサ価格の高騰に加え、ナフサプレミアム、為替変動、メーカーの採算是正、プレミア価格設定など複数要因が価格を押し上げている。国産ナフサ価格が大幅に下落しない限り、本格的な値下げは期待しにくいとの見方が多い。
- ・溶剤・樹脂・添加剤では平均約10%、短期間で約14%上昇したとの回答もあり、ナフサ由来原料を中心に原材料費が大幅に増加している。上昇幅が大きく、企業収益や価格転嫁への影響を懸念する声が目立つ。

3～4月の溶剤価格急騰を契機に、樹脂・顔料・添加剤・副資材へと値上げが波及し、その後も2次・3次値上げが続くなど高コスト状態が定着している。一部溶剤ではナフサ価格の下落を受けて価格改善の兆しも見られるものの、全体では依然として高止まりが続き、値上げ要因も原油・ナフサだけでなく為替や採算是正など構造的なものへ広がっている。

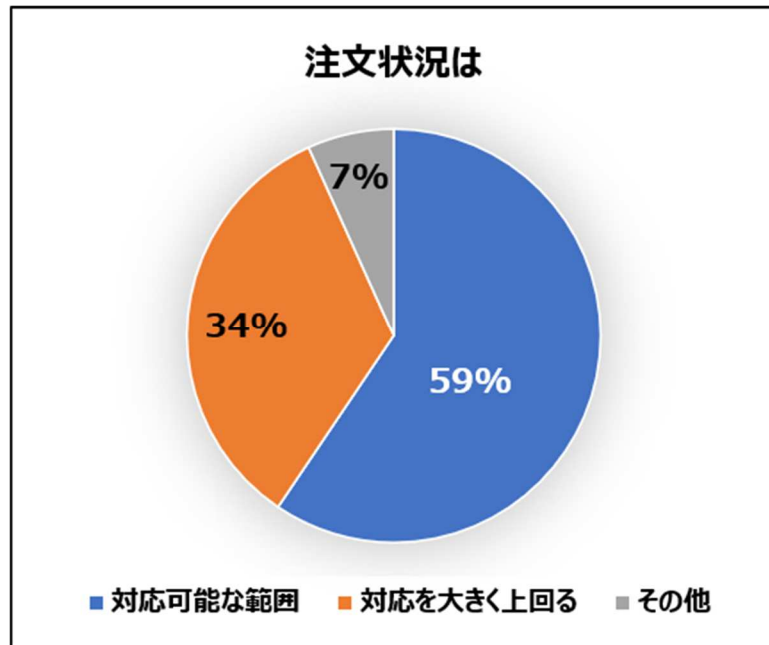
原材料価格の今後の見込みは



- ・大半の原材料は値上げ後の高水準を維持しており、来月以降も高止まりが続くとの見方が多い。価格が下がる要因は乏しく、6月と同様の状況が続くと予想されている。
- ・樹脂メーカーから追加値上げの要請や、顔料・添加剤の価格改定が続いている。4～5月の値上げラッシュは一服したもの、2次・3次値上げや7月以降の新たな値上げが予定されている。
- ・一部の溶剤はナフサ価格の下落を受けて値下がり傾向が見られるが、高値在庫の影響などから価格改善は限定的である。一方、樹脂・顔料・添加剤は横ばいから上昇傾向が続いている。
- ・包装材・容器・輸入添加剤・ユーティリティ費用・運送費などでも価格上昇や価格是正の要請が続いており、製造コスト全体の上昇要因となっている。
- ・中東情勢、原油・ナフサ価格、円安などが価格形成に大きく影響している。8月頃までは現状維持との見方がある一方、9月以降はナフサ価格や国際情勢次第で追加値上げ・価格変動の可能性があるとの見方が多い。

4～5月の急激な価格上昇局面は落ち着きを見せ始めているものの、原材料価格は依然として高止まりしており、樹脂・顔料・添加剤では追加値上げが続いている。一部溶剤には価格改善の兆しが見られる一方、高値在庫などにより値下げ効果は限定的であり、包材・物流・ユーティリティを含めたコスト上昇が続いている。今後の価格動向は中東情勢やナフサ価格、為替など外部環境に大きく左右されるとの認識が共通している。

§ アンケート集計結果（３） <6月15日時点の肌感覚で状況を教えてください>



- ・顧客の稼働増加や価格改定前の駆け込み需要により、前年を上回る注文が集中した。一部製品では通常を超える受注となり、生産能力や原料調達が追いつかず、即応できないケースや受注残が発生した。
- ・供給不安を背景とした先行発注・在庫確保に加え、他社の供給制限による代替需要が受注増加を後押しした。一方、需要家向け製品では他社からの流入は見られないとの意見もあった。
- ・シンナーや塗料の注文は、5月連休以降から徐々に落ち着き始め、6月には通常水準へ戻りつつあるとの回答が多い。買い込み行為も沈静化し、一部では注文減少や原材料在庫の余剰も見られる。
- ・4～6月の受注増加は需要の前倒しによるものとの見方が強く、7～8月以降は在庫消化の影響で受注が大幅に減少する反動減を懸念する声が多い。
- ・受注が供給能力を超えた製品については、顧客への発注数量調整の依頼や注文内容の確認を行うなど、営業・生産部門が連携して供給の平準化を図っている。全体としては対応可能な範囲に戻りつつあるとの見方もある。

4～5月は供給不安や価格改定前の駆け込み需要、他社からの代替需要により受注が急増し、一部では供給能力を超過した。しかし6月以降は買い込み需要が落ち着き、受注は通常水準へ戻る傾向が見られる。一方で、先行発注の反動による7～8月以降の需要減少を懸念する声が多く、今後は需要動向を慎重に見極める局面に入っている。